

新善光寺 寺報 北 縁

2019年 5月 Vol. 40

ほくえん

特集

「新善光寺の平成を写真で振り返る」

永代供養合葬墓前にて

ぎょ き えいたい し どうほうよう
御忌・永代祠堂法要のご案内

6月16日(日) スケジュール

- 午前 10 時～ 合葬墓前にて法要
(納骨されている全精霊位様をご回向します)
- 午前 11 時～ 講演 (右ページ参照)
………… 昼食休憩(お参りの皆様に昼食を用意しています) ……………
- 午後 1 時～ 本堂にて御忌・永代祠堂法要

「御忌」とは簡単にいうと浄土宗を開かれた法然上人の法事のことです。

命日は1月25日で、現在はあたたかくお参りしやすい4月に全国のお寺でおこなわれておりますが、新善光寺では北海道の気候を考えて6月におこなっております。

阿弥陀様を信じて南無阿弥陀仏と唱えれば必ず救済を受けて平和な毎日を送り、浄土に生まれることができるという万民救済の教えを広め残してくれたことに感謝する法要です。

また併せて永代祠堂法要もおこなっております。本堂須弥壇の上に位牌札をお祀りし、毎日順繰りに回向しております。この法要ではお祀りしている全ての精霊様を一斉に回向・供養いたします。

新善光寺では随時、永代祠堂を受け付けております。

永代祠堂
一霊位様二十万円



本堂での法要



合葬墓前での法要

講演

札幌の道

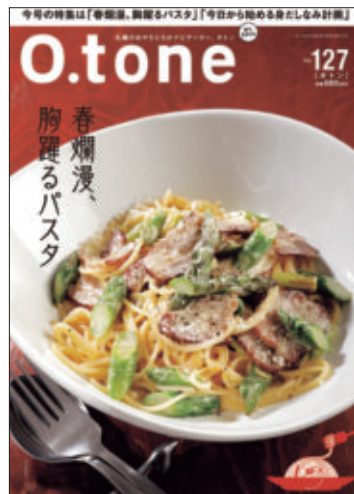
和田 哲 氏

株式会社あるた出版「O.tone」編集部デスク・街歩き研究家



昭和 47 年（1972）生まれ、札幌市出身。市電沿線で電車を毎日見ながら育つ。札幌旭丘高校、日本大学法学部卒業後、広告代理店を経て平成 24 年（2012）から現職。古地図や古写真から札幌の歴史をひもとき、「O.tone」の連載や講演、街歩きイベントなどでその面白さを伝えている。NHK「プラタモリ」札幌編など、テレビ・ラジオにも出演。

月刊「O.tone」連載中の“古地図と歩く”で札幌をひもといている和田氏に札幌の歴史や、その中での寺院の成り立ち、新善光寺に関連するところでは藻岩の登山道のことなど、たっぷりお話しをしていただきます。



「O.tone」最新号 Vol. 127



Vol. 120 で紹介されました

〈進呈〉

法要に参詣いただいた各家様には「法然さま二十三のお歌」（佛教大学 教授 伊藤真宏 著）をお渡します。

法然上人のお人柄や想いにふれることができる一冊となっております。



新善光寺の平成を写真と共に振り返る

平成
3年

住職交代と宝塔（現・永代供養合葬墓）の完成（7月）



平成
4年

五世住職・太田隆賢遷化



平成
6年

悲願の山門完成



平成元年 新年会

団体参拝旅行

平成
元年

大本山増上寺参拝と東海路・京都の旅



平成
12年

総本山知恩院・誕生寺参拝と瀬戸内・しまなみ海の旅（3月）



平成
9年

職員集合写真



平成12年 秋のレクリエーション

平成
21年

宮の沢別院落慶



平成
27~29年

本堂、外壁大改修工事・新納骨堂完成



団体参拝旅行



平成
15年

御忌大会／大本山増上寺参拝と春の房総東京アクアライン3日間（4月）



平成
22年

法然上人800年大遠忌／総本山知恩院参拝と四国八十八ヶ所巡り（11月）



平成
27年

大本山善光寺ご開帳の旅（4月）



シリーズ 仏事のおはなし

お勤めのはなし ⑱

今回で「お勤めのはなし」は終わりにになります。「北縁23号」から始めたこのおはなしも、年3回の連載とはいえ、5年に渡ってのおはなしだったこととなります。内容は檀信徒さんの勤める「日常勤行」を中心としてのおはなしでしたが、これは信徒さんだけでなく、僧侶も含めて浄土宗のお勤めの基本となっています。ホームページにてバックナンバーを掲載していますので、お勤めでちょっとした疑問が出たとき改めてご覧いただけたらと思います。

さて、今回は「送仏偈」と「日常勤行のまとめ」です。

・送仏偈

「送仏偈」は読んで字のごとく、「仏様をお送りする」偈文です。では、早速偈文（図1）と書き下し文・意識（図2）をしてみましょう。

（図1）送仏偈

しょう ぶつ ずい えん げん ほん ごく	ふさ さん こう け しん そう ぶつ
● 請 仏 随 縁 還 本 国 ●	普 散 香 華 心 送 仏
がん ぶつ じ しん よう ご ねん	どう しょう そう かん じん しゅ らい
願 仏 慈 心 遙 護 念	同 生 相 勸 尽 須 来
	● ● ●
	● : 鳴らしものの打つ場所を指します。

（図2）送仏偈 書き下し文・意識

こ ほとけえん したが ほんごく かせ
請うらくは仏縁に随って本国に還りたまえ
(仏さま縁にしたがってお浄土へお帰りください)

あまね こう け さん ころろ ほとけ おく
普く香華を散じ心に仏を送りたてまつる
(香を薫じ、華を散じてまことを尽くして仏さまをお送りします)

ねが ほとけ じしんはる ごねん
願わくは仏の慈心遙かに護念したまえ
(願わくは、慈しみの心で遙か浄土より私たちをお護りください)

どうしょうあいすすむ ことごと き
同 生 相 勸 む 尽 く 来 たる べし
(先立ち浄土に生まれた方々も勧めあって、お導きください)

日常勤行 次第の序分^{じよぶん}において、仏、菩薩を「四奉請」^{しぶじょう}「三奉請」^{さんぶじょう}によって道場（お勤めを行っている場所）へお招きするという事は、以前おはなししました。この偈文はそのお招きした仏さまをお送りする為のものです。

我々の日常生活において、お客様をお送りする時にも通常は玄関までお見送りをしますね。それは敬意を示す行為となりますが、仏さまをお送りする時には香を薫じ、お花を散じてお送りするのがお作法となります。実際にはお香を薫じることはあっても、お花を散じる（花びらをまく）という事はなかなかできないと思います（お寺の法要では、「散華」^{さんか}という花びらを模した仏具をまく作法をすることがあります）。この偈文の中には、そういった仏さまを敬ってお送りするお作法が記されています。

三句目、四句目では、阿弥陀さまと先立たれたお浄土にいるご先祖様が共に、現世で暮らす我々の日々の暮らしを大いなる慈悲の心をもって護っていただく事を願う文言となっています。心を込めた読誦^{どくじゆ}をもってお送りすることにより、その願いが阿弥陀さま、ご先祖様に通じることでしょう。そしてこの偈文をとこな後、静かに^{じゆうねん}お十念してお勤めを終えましょう。

・日常勤行のまとめ

日常勤行のことを「お勤め」という事があります。これは経典を声にして読誦するという具体的な行いというよりは、その中身を理解しその教えを心がけていくことが大切だということです。日常勤行の中では、「信仰というものをどんな心持ちで^{とら}捉えることが大切なのか」ということを説いています。

「香偈」から「送仏偈」までの内容をまとめてみましょう。

“香を薫じ、仏さまを敬いお迎えをする。自らの生活を省みて身を浄め、謹んで経典を読誦する。阿弥陀さまのお浄土を思いお念仏の行を積む。その功德を様々なものに手向け、またそれらの功德をもって先立たれたご先祖さまと共に阿弥陀さまのお浄土での成仏を願う。”

そして「日常」とは「日々の生活の」という事です。檀信徒の皆さんには、是非、日々この「お勤め」をつとめていただき、信仰の中に安穏なるご生活を営んでいただきたいと思います。

いずれ、「新善光寺 発行」の経本として内容をまとめられればと思っております。

次号からの「仏事のおはなし」は、「浄土宗の年中行事」についておはなししていきたいと思っております。

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話②

〈令和最初の春を迎えて〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



31年間の平成は終わり、新しい令和が始まった。出典は『万葉集』の「厳しい寒さの後、春が訪れて様々な花が咲くような日本でありたい」という序文からと発表された。まさに今、ようやく訪れた北海道の春の光景だ。

4月6日、大本山増上寺の法然上人の御忌（忌日法要）に七条袈裟・袴・誌公帽子しこうぼうを着けて参列して総勢300人くらいが大門に整列した。浜松町一帯の青空に大梵鐘が鳴り響いた。木遣り・寺侍・ご詠歌を吟じつつの吉水講の皆さん、天童役のお稚児さん、その後私たちが続いた。江戸絵巻を感ずる練り行列だ。本堂内での引声阿弥陀経法要は圧巻だった。節つきの阿弥陀経は、形容の通り極楽にある満ちた池の波のように美しかった。お念仏のみ教えをこれしかないとお示しくださった法然上人のご苦勞への報恩感謝の念は、届いたでしょうか……。



女性僧侶と共に

この春を待ちわびていたのが、長男だった。「すべてのものが待っていた春が、今ようやくやってきたんだ」という詩を残して逝ってしまった息子。5月のあの日、私の入院先に現れたがいつもとまったく変わらなかった。阿弥陀仏が用意した極楽浄土が、西の方角と知っていたかのように、真っ赤に染まる夕陽に吸い込まれて逝った。今年は、40回目だ。10代だった息子は50代になり、30代の母は70代になり、年老いた。しかし、会いたいという母の思いは変わらない。この切なさに寄り添い、見守ってくれたのが、俱会一処の楽しみだ。『阿弥陀経』に、たとえこの世で愛する者と別れたとしても、お念仏申す者同志は、阿弥陀仏のお迎えを頂き、必ず俱に一つの処・西方浄土で再会できると説かれている。つまり、阿弥陀仏が息子との再会を確約くださっているのだ。そのためには、しっかりお念仏に励むよう示している。

4月、2人の孫たちは大学生・高校生となり、新たなスタートを切った。ここには彼らのかげがえのない祖父力の影響は大きい。2人は、松前藩士より連綿と続いている血縁を継いでくれる存在だ。改元を通して、さらなる成長を祈る。

先月、本屋大賞受賞の『そしてバトンは渡された』を読破した。血のつながらない親の間をリレーして育った女子高生が、主人公だった。この家族愛を通して、愛されるより愛する者がいる方が、人は幸せに思うと知った。読みながら、身近な家族の存在に感謝した春だ。

初春の令月にして 気よく風やわらぎ 梅は鏡前の粉をひらく

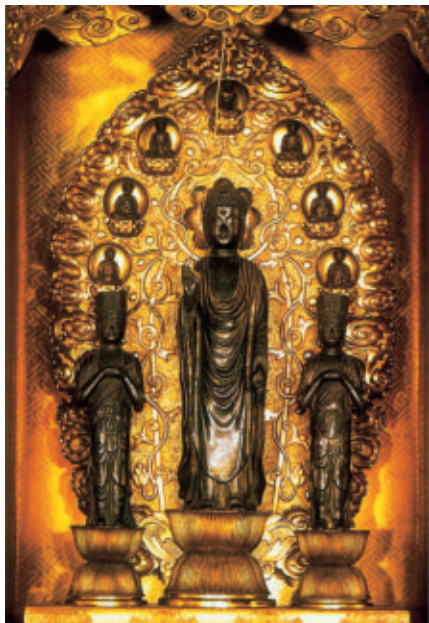
※8月1日から5日まで総本山知恩院で法話を担当いたします。（・6:00～／・10:20～ 各30分）

善光寺如来さまはどうして秘仏になられたのか

先日、当寺にお参りにみえた方から「どうして秘仏なのですか」という質問を受けました。当寺のご本尊は、長野の善光寺と同じ一光三尊仏（善光寺如来）をおまつりしています。また、長野の善光寺同様に、当寺の如来さまも秘仏です。善光寺如来さまは、自ら秘仏になられたと伝えられています。如来さまの御心は深く、自己中心的な在り方をしている私たちには、たやすく知ることはできませんが、如来さまをお慕いする気持ちで、どうして秘仏になられたのかということを押察してみたいと思います。

長野の善光寺では、数え年で7年に1度御開帳が行われます。前回の御開帳は、平成27年（2015）でした。この御開帳の時にお厨子の扉が開かれ、お姿を拝することができるのは、前立本尊です。瑠璃壇におられる善光寺如来さまは、絶対秘仏といわれ、決して扉が開かれることはありません。そう聞くと“ほんものが見られないのか〜”と残念がる人がありますが、私は前回の御開帳でお参りし、撞木造りの本堂の脇をバスが出るとき、“またお会いしますね”という言い知れぬ感情が我が身にこみあげ、何かいわく言い難いやさしさに包まれたことをおぼえています。人それぞれ感じ方はさまざまでありましょうが、1000年以上の長きにわたり、我らを教え導き、癒してくださっているのが、善光寺如来さまなのだ実感しました。お仏像とは、美術品や工芸品のように見て楽しむものではないということです。

ところで、善導大師（613～681）は『観経疏』序分義に次のようにお示くださっています。「大きな釣鐘は響くといっても、必ずたたくことを待って鳴り響きます。如来さまは生きとし生ける者に慈しみの教えをそそいでくださいます。それは、必ず真実の道を求めたいという要請を待ってはじめてお説きくださるのです。」（取意）どんなに立派な釣鐘でも、たたかなければ音は鳴りません。如来さまの教えも、私たちが真実の生き方をしたいと求めなければ聴くことはできないのです。善光寺如来さまが秘仏になられたのは、もしかすると、私たちの真実の道を請い求める心を待ってくださっているからなのかもしれません。喜怒哀楽にふりまわされて、一喜一憂する私たち。悲しみの中を生きてゆくしかないと決着し、どうか如来さま真実の世界を私にお教えくださいと心に決めたとき、秘仏である如来さまを拝することができるのです。



長野の善光寺の前立本尊

この5月に新緑の信濃路を行き、長野の善光寺にお参りする予定です。御開帳の年ではありませんが、如来さまにお会いすることができることは、大変うれしく思います。

〈文：立花俊輔〉

(来年度) 知恩院団体参拝旅行の開催

前回は2015年に「信州善光寺ご開帳参拝旅行」、前々回は2010年に「知恩院参拝と秋の京都・四国の旅」と団体参拝旅行に多くの皆様にご参加いただき、好評を得ていました。

知恩院の国宝御影堂の平成大修理事業も終了をむかえ、現在は堂内の設備工事をおこない、2020年4月に落慶を行う予定です。

そこで今回は知恩院参拝をメインに京都周辺の寺院を巡る旅行を計画しております。詳細は追って報告いたしますが、是非とも多くの皆様のご参加をお待ちしております。



右側が御影室



内部の様子

毎年恒例の寺院を巡る旅に出かけてみませんか

今年も秋に日帰り寺院参拝ツアーをおこないます。行き先は現在選定中であります。このツアーには寺院の内部までじっくりみることができるといった特徴があります。こちらにも正式に決まりましたら報告いたします。

(予定) 令和元年 10 月

昨年の様子です。美唄と砂川の寺院を参拝しました。



絵の寄贈がありました

お檀家の本間清通様より絵の寄贈がありました。

岩田華谷画伯の大型の作品で非常に迫力があります。現在、応接室にかけておまして行事の際には開放をしております。皆様もお参りの際には是非ご覧ください。



仏教講座に参加してみませんか

毎月第4土曜日におこなっております「仏教講座」は主に写経をメインにおこなっております。題材は毎月変わっており、現在は“阿弥陀経”の和文になっております。ひらがなも混じっていますので、初心者の方でも安心して参加できるかと思います。

また、筆にご不安な方は筆ペンでもかまいません。事前予約は不要です。

どうぞ、静寂な空間で心を落ち着かせて写経をしてみませんか。

6月22日(土) 午後2時 「写経～阿弥陀経より」

7月27日(土) 午後2時 「写仏」



写経を通して自らと向き合ってみましょう



お茶タイムでの解説

※ 8月24日(土)、9月28日(土)、10月26日(土) はいずれも写経の予定です。

お寺の掛軸を紹介します⑫

18 当山所蔵 法然上人絵伝 第四幅



この図は、法然上人（1133～1212）の生涯を描いた4幅の軸のうちの最終部分です。法然上人が往生されてからおよそ15年後の嘉禄3年（1227）に、延暦寺の僧が法然上人の墓所を破壊しようとしました。そこで弟子たちは、法然上人のご遺体を大谷の地（現在の知恩院）から移すことになりました。法然上人の棺は、京都の西の郊外である嵯峨や太秦に安置されました。そして、翌年の安貞2年（1228）粟生野にて、法然上人のご遺体は茶毘にふされました。

〈特別展示のお知らせ〉

御忌・永代祠堂法要がおこなわれる **6月16日**に、こちらの掛け軸ほか数幅ならびに昨年奉納いただいたお像を特別展示いたします。どうぞ是非ご覧ください。



《清璋寺から》

寺内ご利用について

～清璋寺は新善光寺の檀信徒の方もご利用いただけます～

清璋寺では、本堂の参拝だけではなく、ご法事などのご利用も可能です。

新善光寺の檀信徒様でご希望の方は清璋寺までご連絡ください。

- ・ 清璋寺内バリアフリー
- ・ 車いすの利用可



《納骨堂のご案内》

現在、清璋寺の納骨壇には空きがあります。格調高い仏壇型のタイプや、現代的なデザインを施したタイプもあり、多種多様です。どうぞ、お気軽にお尋ねください。



札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 清璋寺

TEL 011-668-5110

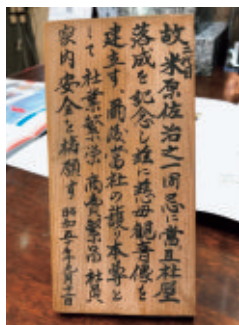
— お檀家タウンページ ~ともいき訪問⑩—

お仏壇のよねはら

明治30年創業の北海道の仏壇・仏具のパイオニア

今回は新善光寺からすぐの“お仏壇のよねはら”様に行ってきました。まず目に入るのが5階建てのビルの屋上にある高さ8メートル・重さ11トンの巨大な慈母観音像です。昭和50年建立ということ

です。創業は明治30年、仏壇職人の米原佐吉氏が富山県高岡から入植し、北海道で初めて仏壇・仏具の製造・販売を始め、また多くの職人さんを育てていったそうです。昭和18年に2代目米原佐治氏の代で現在



慈母観音像の由緒

地へ移転。昭和50年に現在の本社ビルを建てられました。

売り場は全4フロアで伝統的な唐木仏壇・金仏壇や現代調なモダン仏壇、大きさは大小様々で仏壇は300本以上も置いてあり北海道最大級とのこと。各フロアの沢山の仏壇を見させていただきましたが、伝統的な仏壇はどれも作りが素晴らしく、またモダン仏壇は明るさが際だっていました。また線香やろうそく、各種仏具も沢山の種類を取りそろえられています。

専務取締役の米原慎二氏によると最近では位牌の種類も増やしているとのこと、色や素材も様々でした。「なかなか入りづらいと聞きますが、是非お気軽にフラッと立ち寄っていただければ」ともおっしゃっていました。

慈母観音像のみもとへと足を運んで仏壇・仏具の素晴らしい世界にふれてみませんか。



金仏壇フロア



2階フロアはモダン仏壇が多数



専務の米原慎二氏



札幌本店

〒064-0804

札幌市中央区南4条西2丁目2

TEL 011-511-7725

営業 9:30 ~ 18:00

<https://www.butudan.co.jp/>

旭川店

〒071-8131

旭川市末広1条3丁目1-21

TEL 0166-51-8780

営業 9:30 ~ 18:00

慈啓会から

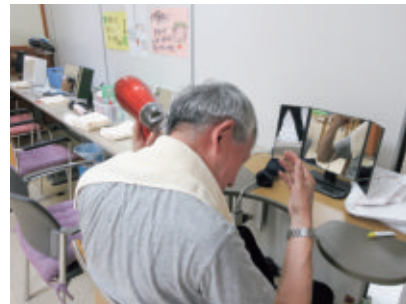
慈啓会デイサービスセンター

当センターは昨年の4月に開設から20年を向かえ、その時代の流れからご自宅で安心して生活出来る様に、個別機能訓練やご自身で出来る事は自分で頑張りますよ！という「自立支援」へ向けて取り組んでおります。機能訓練の充実を図るためにリハビリの専門スタッフを配置し、専用の訓練室にて手厚い機能訓練の実施をしております。日常生活動作では入浴後の整容動作に着目し、ご利用者様ご自身でドライヤー・ブラシを使用して容姿を整えて頂くようにしました。ご利用者様からも「やれば出来るようになってきた」「これも手を動かすことで運動になるね」と言う嬉しいお言葉も頂けました。また、カフェコーナーを設置し、ご自身で飲み物を作って頂いたり、今年度からは午後のレクリエーションに脳トレ・手芸・ゲーム等を数種類用意し、自分で選択し決定する（自立支援）ように促しています。デイサービスを利用することで少しでもできることが増え皆様の生活の質が向上することに結び付けてくだされば幸いです。

〈センター長 栄木康浩〉



個別機能訓練



ドライヤーで髪を乾かす様子



脳トレ

お問い合わせは 慈啓会総合相談室 へ

札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6番51号

フリーダイヤル 0120-83-8291 TEL 011-561-8291 FAX 011-561-8298

しろいし幼稚園から

すくすく育てほとけの子

今年もしろいし幼稚園の園児たちが元気に参拝に来ました。
当日は、ほとけさまに“お花”と“灯り”をささげ、また幼稚園の理事長でもある住職の話を真剣に聞いていました。



しろいし幼稚園では「ほとけさまの教え」を通じ、いのちの大切さを知り、ありがとう・ごめんなさいが自然と言える素直で優しい「ほとけさまの子ども」を開園以来育てております。



学校法人新善光寺学園 しろいし幼稚園

〒003-0028 札幌市白石区平和通1丁目南6番16号
TEL 011-861-4426 FAX 011-866-0707 Email siroisi-pippara.ed.jp

東京別院 霊源寺から

東京近郊でのご供養に

新善光寺の東京別院である品川区にある霊源寺では定例法要として年2回、彼岸法要をおこなっております。今年は3月24日に春彼岸法要をとりおこない、東京近郊にお住まいの新善光寺のお檀家様も多く参加されました。

またお盆参り・月参り・葬儀・法事なども随時承っており、先日も茨城県水戸市にお住まいの方の葬儀を執りおこないました。

どうぞ、いつでもご相談いただければと思っております。



品川区荏原

都心の静寂
安心なご供養

永代型納骨壇 **50万円**より (2霊収蔵可能)
霊源寺納骨堂「博真閣」
宗旨・宗派は不問 どなたでもお求めいただけます

大光山 霊源寺 受付時間 9:00~19:00
毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅 徒歩7分(桐ヶ谷斎場真向かい)
〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2 FAX:03-3494-6319
TEL:03-3494-1083 大光山霊源寺 検索

北縁 なんでも Q & A

いつも北縁をお読みいただきありがとうございます。今回の Q & A は、先日開講の「新善光寺 仏教講座 写経会」にご参加いただいた方からのご質問にお答えしていきます。紙面の許すかぎりとなりますが、お答えできなかった質問は次号以降でお答えしていきたいと思えます。

また、本紙添付のハガキでも引き続きご質問、感想を募集しています。どうぞよろしくお願ひします。

Q 何個かある位牌をまとめた時はどうしたら良いでしょう？

A お位牌は故人の依代^{よりしろ}となる仏具です。ですから基本的には、おひとりの方にひとつというのが大原則です。しかし、現代ではご夫婦でひとつのお位牌にまとめる「夫婦位牌」、また木札などにお戒名などを記し何枚かを重ねて収蔵できる「繰り出し位牌」などがあります。位牌は人が亡くなる度に増えていくものですが、33回忌のご供養（「弔い上げ」などと言います）が終わった時点で「先祖代々」というお位牌を皆さんの依代として合祀するという習慣があります。必ず時期がきたら取りまとめるという事ではありませんが、お仏壇のスペースなどを考えたとき、古くなったお位牌を取りまとめ、「先祖代々のお位牌」を作成するとか、前述の「繰り出し位牌」などをご利用いただくのがよいでしょう。また、それら個別の位牌を取りまとめたとしても、「過去帳」に故人のお名前等々を記すことで、ご先祖の記録が残ります。

Q 「宗派」についてわかりやすく教えてください。

A 宗派の「宗」は「むね」と読みますが、「むね」という音が示すのは「たいせつなもの、場所」という意味があるそうです。「建物の棟」「体の中心の胸」いずれも大切な部分ですね。さて「宗」ですがこれは「心の持ち方としての大切なこと」となります。仏教には「八万四千の法門」と呼ばれるほどたくさんのお教え（心の持ち方）があります。それは、数多の人が、それぞれにあったお教えを享受できるため、お釈迦さまが遺されたものです。この数多のお教えから特に大切にすべきものを絞っていったものが「宗派」という形として今に繋がってきました。私たち浄土宗は「お念仏をお唱えし、その作法を通して阿弥陀さまのお慈悲を頂戴する。そしてそのことを心の拠り所として日々の生活を過ごしていく。」というのが「むね」となります。

他の宗派でもそれぞれ一番大切な教えとして位置づけしていることがあり、それが異なるということで宗派という言葉で区別しています。

Q 写経を自宅で書いたら処分してはだめでしょうか？

A 経典はお釈迦さまのことばであり、それを書写することで功德を積むというのが「写経」という仏道修行です。ですから下書きや練習などで書いたものは別として、気持ちを込め清書したものは大変ありがたいものです。せっかくご自身が勤め上げた証ですし、ありがたい経典が記されたものですので、是非お寺に奉納しましょう。

テレビ番組で紹介されました

4月29日に北海道テレビ（HTB）の「イチオシ!!」“しあわせ散歩”コーナーに新善光寺が映りました。

約2週間前に取材に来られ実際に本堂や仏像を案内しました。放送後の反響も大きく翌日からお参りに来られる方も増えたような気がします。

特に今時期は色とりどりの花がキレイに咲いております。いつでもお参りはできますのでどうぞお気軽にお越しください。



新善光寺今後の予定（6月～10月）

6月16日(日)	御忌・永代祠堂法要	9月23日(月)	秋彼岸の法要
7月25日(木)	13時：慈母観音菩薩供養会	10月(日にち未定)	日帰り秋の寺院参拝旅行
8月1日～15日	ご自宅へのお盆参り	仏教講座：6月22日(土)、7月27日(土)、	
8月16日(金)	お盆の法要	8月24日(土)、9月28日(土)	
9月(日にち未定)	鴨々川ノスタルジア	いずれも午後2時開始	

編集後記

今号は特集として「新善光寺の平成を振り返る」という企画をたててみました。まだまだ載せたかった写真もありましたし、多くの皆様のおかげの上で新善光寺が成り立っていると改めて実感いたしました。

「令和」の時代も皆様と共に歩んでいきたいと思っております。どうぞ、何卒宜しく願い申し上げます。（真海）

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺

検索



Hokuen 40

新善光寺寺報

北 縁

発行／2019年5月発行

発行責任者／新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706

[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp